

学校保健

No.170

(財)日本学校保健会

○座談会・地域学校
保健委員会の役割り… 2

○現代人とこころの健康… 8

○学校保健協議大会の将来 9

~~~~~  
会報をよくするため、読者のご意見を求めています。お葉書をお寄せください。

## 年頭所感 「こころとからだ」の調和

(財)日本学校保健会会長代行 村瀬敏郎



新しい年を迎えるにあたり、本年も心を新たにして学校保健活動の充実強化を図りたいと思います。

21世紀に到来するであろう高齢化社会に向けて、その担い手となる児童・生徒の健全な育成は国民的命題であります。特に、数年来われわれ学校保健関係者が取り組んできた「こころとからだ」の調和を重視したテーマは、国の将来を左右するものといっても過言ではありません。

日本学校保健会も活動のフォーカスをここに定め、センター的事業の研究課題の設定、普及事業の活性化に意をそそいでおりますが、その実績を上げるためには関係の皆様にも絶大なご協力をお願いしなければなりません。よろしくお願い致します。

第37回学校保健研究大会は、大阪において盛大に催されました。本年は長野県において開催されることになっております。皆様とともに、ご活躍の成果をお話し合いできることを期待して年頭のご挨拶と致します。



スーパービジョンで会場を紹介した大阪の研究大会・國分文部省体育局長の挨拶

新春座談会

# 地域学校保健委員会の役割について

## ～学校保健委員会の活性化のために～



出席者 (敬称略)

司会・日本学校保健会

専務理事 和久井 健 三

大田区教育委員会

保健給食係長 堀 内 準一郎

大田区立大森第三小学校

校 長 畑 田 光 幸

内科学校医 片 桐 正 雄

(地域学校保健組織活動推進委員)

養護教諭 山之井 明 子

大田区立中富小学校

校 長 佐 野 文 夫

同 入新井第五小学校

元養護教諭 鳥 居 益 子

同 大森東小学校

養護教諭 泉 妙 子

地域学校保健組織活動推進委員会

委員 長 石 井 宗 一

**和久井** 日本医師会の委員会で学校保健委員会の活性化について、東京都大田区の大森ブロック保健委員会の活動が取り上げられた。



和久井健三専務理事

その後文部省関係者との話の中に話題となり、今回センター的事業の一環として「地域学校保健委員会推進事業」が本年度の事業として発足した。

全国で10の保健会に委託し実施されているわけだが、この事業の発端となった大森ブロックの活動状況をお話していただきたい。そして、この地域保健委員会というものをご理解いただくとともに、全国的にも普及させたいと考えている。

### 大森ブロック保健委員会の成立について

**和久井** 最初に堀内係長さんから、大森地区の地域環境についてどうぞ…。

**堀内** 大田区は東京都の西南、武蔵野台地の先端に位置している。大森地区は東京湾と多摩川に面した

低地部に在り、羽田空港に近い所である。人口は約67万人、小学校64校、約45,000人、中学校28校、約23,000人、大田区の学校保健会の活動は水準以上と認められている。

**和久井** ブロック保健委員会の成立経過を…。

**片桐** 昭和33年の学校保健法の制定以前は、学校医



片桐正雄先生

の仕事も健康診断だけで関心も低かった。30年代の後半になって学校保健委員会の必要性がとりあげられてきた。そのころに私は一つの学校の中だけで委員会活動をするのには隘路もあり限界があるので地域内の複数の学校が連携して開催すれば、より一層その

活動が充実するのではないかと考えていた。

昭和40年に私と大森第五小の名和校医、中富小の森田校医の三人で、校長、養護教諭の先生方に協力を願って、その6月に大森ブロック保健委員会を設立した。

その設立したときの方針としては、ブロック内の児童・生徒の健康で安全な生活を確保するための情報交換と、共通テーマについて検討し方向づけをする。そうすることによって、各学校の保健委員会を充実していこう、というものである。

#### 組織はどうなっているか

**和久井** 過日の学校保健研究大会の分科会で片桐先生にはこのことで発表していただいたわけである。鳥居先生、組織について説明を…。

**鳥居** 昭和43年から61年まで関係していたので出席した。京浜急行の大森町、平和島、梅屋敷をはさんだ近接8校で発足した。昭和57年から新設1校が加わり、現在では9校である。出席者は各校から内科校医、校長、養護教諭の3人は必ず出席する。当番校は、この他、各学校医、学校歯科医、学校薬剤師、教頭、保健担当教諭が出席し、大体35~36名である。当番校はそのときのテーマについて資料を準備し、会場、司会などの運営をする。

**山之井** 現在も22年前の発足当時と変わっていない。56年から教育委員会より毎回出席してもらっている。ときには学校保健会会長もオブザーバーで出席する。開催の回数は、57年までは一学期1回、年3回だったが、58年からは二学期、三学期の年2回となっている。

#### その運営の状況は

**佐野** テーマについては養護教諭が事前に各校と連絡し合っ、校医より指導を受けてきめる。そして必要なデータは必ず持ち寄ることとなっている。そのときのブロック保健委員会の内容は、次の朝、各学校の出席者が所属の先生方に伝え、資料などを配布し、情報伝達をしっかりと建設的に活用させていただいている。



佐野文夫先生

例えば、心臓検診や、心疾患についての知識など、専門分野への入口までの所まで教えてもらっている。自分ではわかっていたつもりでも、あー、まだ知識として足らなかったということを毎度痛感し、たいへん勉強になっている。

**畑田** 地域学校保健会と即地域との直接的関わりはない。しかし、地域に密着している校医の先生方から情報収集という形で連携がとれ、また、各学校単位ではPTAの広報活動を通して滲透することができる。

一方、資料集めのため、保健所や、教育委員会などを通して、地域全体を眺めていく、という面で地域との連携を密にしている。

#### 具体的な内容について

**片桐** 40年から62年までつづいているので、検討された事柄は大変多いが、その中のテーマを整理してみると、やはり健康診断関係が多い。大田区では43年から区全体を対象に、心検、尿検をやっている関

係上、その問い合わせや報告などが多い。肥満児対策は大森ブロックで42年に調査をした。その後大森、蒲田、田園調布の全区へ調査を広げた。また、羽田空港に近い関係で防音校舎の保健管理など、地域特性の環境衛生問題もとりあげられている。この他、視力保護、歯科衛生などがあるが、とくに各学校の保健委員会がどのように開催されているかについても何回か話し合いがあった。

この他、特殊な疾患、眼科、耳鼻科の病気、予防接種、むし歯予防など各校医から話を聞くことが何回もあった。

**泉** 私は57年から仲間入りさせていただいている。ブロックの養護教諭同士が集って、そのときどきのテーマについて前向きに進歩しようと研究し研修している。健康相談は、地域との連携が大きな足がかりとなっている。それは指導されたものがブロック内に止まらず、PTAを通して地域へ滲透していくよう心がけている。

#### 活動の成果について

**和久井** 学校と地域に分けてこのことについてご発言願いたい。

**泉** 学校保健というのは真剣に取り組まないと成果の上りにくい問題だ。関係者から、その後どうなっているのか、という質問に、私は、ブロック内では今こうだ、ということを保健日より、学級だよりに流している。また、大田区内の良い点を取り上げている。**畑田** 一人よがりになるかも知れないが、地域保健委員会を通して、各学校へ持ち帰って先生方へ情報を伝達し、学校保健への関心を高めている。このことが活性化の一助となっていると思う。具体的な疾病への対応や、知識不足を補って勉強になっている。とくに私は、ぜん息、心臓について認識を深めた。また、川崎病、手足口病などもよくわかってきた。

もう一つは、健康生活の指導、歯ミガキの一斉指導の様子をビデオで見せてもらい、よし、うちの学校でもやってみよう、ということになった。それと各学校間の連絡が密になったのが良い。

**堀内** 大田区全体の立場からいうと、42年に突然死が2件つづいて発生した。それを契機として43年から心検を導入した。当時は試行錯誤の中で始まったので、たびたび、地域保健委員会で取り上げていただいた。53年度から小・中1年生全員に心音・心電図方式を導入した。このことは、大森ブロック保健委員会の助言が大いに力となった。



堀内準一郎係長

心検にともない、心臓病の既往症をもつ児童生徒の指導をどうするか、ということをお話させていただくなかで、大田区学校保健会に心疾患委員会を設置してもらった。49年の法一部改正で保健調査を行うことになり、健康管理の集中化、養護教諭の仕事量の省力化のためコンピューター処理の提言をいただき、

53年正式に導入した。そして毎年、保健調査の見直しをしている。

また、肥満についてはローレル指数160以上の子どもが2%を越えるという状況であった。この対策として現場から、肥満は高血圧や糖尿病という身体的な面ばかりでなく、精神面にも影響があるとの指摘を受け、41年から肥満対策の小冊子を作製配布し、講演会も開催している。

大田区内の各学校の保健委員会の活性化を促したことに對し、大森ブロック委員会の活動を高く評価している。

**佐野** 私は8年前よりこれに教頭として、また校長として参加している。その8年前は、毎日、学校保健について資料をもとに鳥居先生から洗脳されていた(笑)。例えば歯の治療率でも、大森第六小は96%だが、うちは68%。どうしたら良くなるのか、など毎日、耳にタコができる程相談を受けた。8年間学校保健をたたきこまれるという恩恵をこおむったわけ(笑)。さて、地域へのアプローチをどうするか、ということだが、うちの学校の保健委員会で自信をもって方向づけたい、助言できるのは、ひとえにブロック委員会のおかげである。

わが校では週1回、2週1回と学校だよりを発行している。これには必ず保健の話題を入れ、地域へのアプローチの一端としている。このように適時適切な指導がPTAにも教員にもできる素地がブロック委員会で培われていることに感謝している。

それからコンピュータ導入は、大森ブロック保健委員会の力があつたからこそだ。当時は入力前の作業に、何でこんな仕事を、と思った(笑)。しかし、この成果は大きかった。それは、こんなデータが欲しいと思うとき先生方の手を煩らわさず、すぐにコンピュータによって資料が得られる。より正確なデータにもとづく、話し合い、あるいは地域の啓発活動ができるということは大きな進歩であった。

私の前々任の学校が東京都の健康優良東京都代表校に選ばれたのもハミガキ運動のおかげだった。カラーテスターを年6回も実施しむし歯が減少したことが評価された。この裏話をお話すると、都の指導部から指導主事の先生が学校にみえられ、たまたま教頭の私が応待した。このとき本校の歯に関するデータについて細かいところまで知りぬいて、対応しているということで驚かれた。これもブロック委員会での勉強の下地がなければできないことだった。

#### 委員会運営上の問題点

**和久井** いままで22年間やってきて、メリット、デメリットいろいろあると思うが、問題点は何か？

**佐野** 学校の立場からいうと、学期に1回のときは学期末に開催し、休暇中の生活指導に参考となった。しかし、学校には多くの行事があり、校長、教頭そろって出席できないことがあり、年2回になった。そのため地域への浸透が少し鈍った。そこで、養護の先生には大へんだが、十分に連絡し合ってテーマを練っておいてほしい。

**片桐** 学校医の立場から考えると、9校の関係者全員が出席するという日程調整がむずかしい。いままでやってきて一番良かったことは、当番校の学校医は必ず全員出席しているという伝統となっていることだ。その他の学校では用事などで2～3人になることもあるが、内科校医はぜひ出席してもらいたいと思っている。

ブロック委員会の当番は順番に担当しているが、その運営は養護教諭が受持っている。そのご苦労に感謝していくとともに、内科校医も、もう少し責任を果していきたい。

**和久井** 学校三師は全部出席するというのでは？

**片桐** 今後の方向づけは、テーマに関係した校医は時間を調整して、必ず出席してもらいたいと考えている。

**和久井** 私の学校でも歯科の話題がとても多い。また、目の質問も多いので専門の医師には出席してもらいたいと思う。養護の立場は？

**泉** 昭和57年以来参加しているが、気になったこと



泉 妙子先生

は、各学校間の交流の場としてとらえられている時期があった。もう少し前進できないものか、と考えている。それは精神面のことで、情緒不安定、心身症などについて、養護教諭はどういう管理指導をしたらいいか助言してもらいたいということ。また、学校

同士が競争し合うためのタタキ台に出されるのはどうか、と悩んだ時期もあった。隣の学校と比較されたりすると、弱い立場の者は小さくなってしまう。

それから、当番校の校医は全部出席するが他の学校からの校医の出席が少ない。私たちは帰校後、委員会のことを報告するが、やはり間接的に報告をきくよりも、直接出席して雰囲気を知ってもらいたい。

**山之井** 問題点としては、ブロック全体で考えたい



山之井明子先生

というテーマは出つくした感じだ。共通テーマを作ると、そのテーマの資料づくり、報告書作成と当番校の養護教諭は負担となる。また、前には1つのテーマをめぐる各校を比較する会になりつつあったため、現在は情報交換や、その時期の問題点を校医の先生に話してもらおう勉強会となっている。正直なところ、今の会の状態では会の終了後もの足りなさが残り、これからどんな形で前進したらいいのか戸惑っている。はっきりいって今後の方向を模索中である。

**堀内** 教育委員会の立場からは申し上げると自主的に20年以上つづけられているなかで、いろいろ問題点があると思うが運営方法や計画面も研究していただき、さらに充実していただきたい。内科校医が主に出席されているが、今後はできれば三師の先生方

からも、それぞれの立場からご意見をいただきたい。**和久井** 話題をしぼるといふこと、心の問題についてなど、大事なことと思うが…。

**片桐** 登校拒否、自閉症などについて昭和43年ごろから話題となり、昭和48年に問題となる子どもの調査をした。このとき3%という報告があった。ということは各学校とも10数名はいるわけである。その一人ひとりには、それぞれに家庭の事情がある。それを突きすすめていくと壁に当たってしまう。その壁は家庭内の事情と子どもを取りまく環境である。私たちも教師も家庭内にまで入って行って指導する力がない、と当時は終わってしまった。

現在では事情も変わり、それでは済まされない時代となった。その壁を突きやぶっていく方策を探りたいし、私たち校医も対策について研究する立場にあると思っている。

#### 今後の方向について

**畑田** 日程調整については非常にむずかしいが、前年度に年間予定を作るとき連絡し合って、できるだけ出席者をふやしたい。各学校における保健委員会の活性化のため、という立場から情報を収集し方向づけをすることが大切だ。とくに心身障害児の一般学級受入れという問題もあり、心の問題などももっと前向きにとりあげたい。



畑田光幸先生

それには各地区への働きかけが、校長会、養護部会、区教育委員会ともバラバラであってはならない。組織化して発展させるといふ方向が望ましい。

地域の保健ということからいふと、大森ブロックでは小学校が中心となっているが、幼、小、中として一貫した考え方でいきたい。

日程調整だが、学校側は何とか出席できる、校医の先生方にもっと目を向けていただきたい。校医には他に仕事がありむずかしいことかも知れないが、校医の先生方の熱意により、私たち学校側もますます力が入るわけだ。

生涯教育といわれている昨今、新しい分野、例えば、生活の健康管理面からの資料作り、地域資料保管センター作りなどへの展開が必要である。その接点がこのブロックでの委員会だと思ふ。

**片桐** 各校医の出席率を高めるために努力したい。大田区内には内科校医会の他、眼科、耳鼻科、歯科、薬剤師とそれぞれの会があるので、それぞれに働きかけて気運を高めたい。

大田区でもこの大森ブロックだけに地域保健委員会があるわけだが、校長、養護教諭の先生方のお力によって、区内全体に設置され、それぞれが活性化し、それがフィードバックされることが理想である。**鳥居** この20年の流れをみると、ブロック委員会の役割りは大きかった。学校、家庭、地域との連携が唱えられるとき、この委員会はやはり有意義だと思



鳥居益子先生

がら進めたい。

それと、各学校の保健委員会との関連をもう少し意識的にとり上げていきたい。それが各校の保健委員会の充実にもつながると思う。さきほど競争の場になるという話もあったが、どうしたら成果が上がるか、という観点から参考にされたい。

私の場合、治療勧告を頻回にだすこと、定期健診以外の健診時期の調整など、いろんな工夫をするのに、他校の実状が参考になった。各学校の情報を交換するのは研修の場としても意味があった。

**佐野** 話題の整理としては、所詮、学校の子どもの父兄も通過集団で、学校にとっては、いつも相手が変わり、くり返されなければならない。相手はつねに新しいわけだから、その意味で学校には不易の話題があり、これについては意図的、計画的な保健指導の中味として位置づけられていなければならない。一方、新知識の吸収の必要もある。その双方を正確・適切に取り上げ、保健指導の充実を図ることが大切だ。

**堀内** 大田区では全校に保健委員会が設置されている。しかし、各学校間に格差があり、年間1回のところから3~4回のところもある。大森ブロックの地域保健委員会が地域内の学校の保健委員会の活性化に役立ったことを証明している。今後は、条件整備のできたところから、このような委員会が設けられることを期待している。

**和久井** 石井委員長からコメントを…。

**石井** みなさんが、20年来、実施された地域学校保健委員会の成果を参考にして本事業を進めたいので、今後よろしく願ひする。学校保健は、校長と養護教諭、三師、PTAのものでなく、一般教師の認識を深めることによって推進する。学校保健法の目的は、子どもと職員の健康を増進し、学校教育を円滑にし、その成果を確保するためにある。からだの健康が心の健康へ、さらに学力の向上に発展する。そのためには、関係者が互に信頼し、ざっくばらんに話し合う場が必要だ。各校の学校保健委員会の活性化がその鍵であると思ふ。



石井宗一委員長

**和久本** 大へんご苦勞なことだが、よろしく願ひする。長時間ありがとうございました。

(文責 杉浦 稔)

昭 和 62 年 度  
 叙勲、授賞された学校保健の功労者  
 《春》 《秋》

◎学 校 医

<瑞 三>

豊島 文雄(鹿児島県)

<旭 五>

本川 為長(長崎県) 小野 大三(島根県)

山田 彰(長崎県)

<瑞 五>

鮎澤 貢(長野県) 中島賢二郎(長野県)

井口 左京(和歌山県) 正木 隆男(富山県)

奥田 千秋(神奈川県) 三須 光子(埼玉県)

静 通倫(群馬県)

<宝 五>

幸田 トミ(徳島県)

<旭 六>

菊池 英虎(宮崎県) 武岡 春雄(佐賀県)

◎学校歯科医

<旭 五>

板垣正太郎(青森県) 大江 正次(奈良県)

立木彌太郎(滋賀県) 藤井 尋造(静岡県)

夫馬 嘉男(愛知県) 毛利 亮茂(福岡県)

<瑞 五>

大熊 猛郎(岡山県) 北總 榮男(千葉県)

渋谷 一郎(北海道) 松村 智徳(埼玉県)

三宅 俊造(長野県) 谷田部 巖(茨城県)

小島 徹夫(東京都)

◎学 校 医

<旭 五>

岩隈 善次(福岡県) 大西益太郎(長野県)

樋渡 喜一(茨城県) 野村 孝雄(滋賀県)

佐久間安雄(千葉県)

<瑞 五>

内山 寅司(神奈川県) 小澤 弘(長野県)

島田 春江(埼玉県) 田中 憲三(群馬県)

堂前 正雄(石川県) 新美 八郎(愛知県)

堀 肇(島根県) 三澤 むら(長野県)

◎学校歯科医

<旭 五>

富田 光男(三重県)

<瑞 五>

石川 夏吉(埼玉県) 田中 正芳(長崎県)

沖田 弘正(富山県) 鶴岡 武一(東京都)

濱見 秀哉(京都府) 森 重雄(鹿児島県)

◎学校薬剤師

<藍 綬>

安齊 文雄(宮城県)

第36回 全国学校保健研究大会

文部大臣表彰の個人・学校・団体

◎学校保健

◎学 校 医 (45名)

藤田 信一(北海道)

及川 清(岩手県)

飯塚 章(宮城県)

渡辺 トキ(福島県)

小川 清(茨城県)

伊藤 昭雄(栃木県)

矢野 亨(群馬県)

野口 仁(埼玉県)

加瀬 幸雄(千葉県)

古寺 清(東京都)

山内 信(東京都)

岩本 正夫(神奈川県)

中山 二郎(神奈川県)

田上 康(富山県)

塚本 利政(富山県)

新田 晴雄(石川県)

中谷 亮一(石川県)

溝部 孝二(山梨県)

平林 吉雄(長野県)

加藤宣太郎(静岡県)

早間 稚博(愛知県)

西井 了(三重県)

小林 清基(滋賀県)

福田 潤(京都府)

福田 尚(京都府)

松本 太一(大阪府)

川合日出雄(大阪府)

藤戸 孝純(兵庫県)

|             |             |              |             |
|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 白石 敏之 (兵庫県) | 清水 紘 (和歌山県) | 豊澤 末木 (和歌山県) | 花田 カヅ (島根県) |
| 幸田 忠彦 (広島県) | 松田 昭正 (山口県) | 齋藤 甫 (徳島県)   | 木村 正春 (香川県) |
| 杉 純一郎 (福岡県) | 副島 泰然 (長崎県) | 菅 敏郎 (熊本県)   | 鶴田 貢 (熊本県)  |
| 小金丸惇隆 (大分県) | 山崎 邦隆 (宮崎県) | 菊池 弘 (宮崎県)   | 前城 健二 (沖縄県) |
| 金城 良武 (沖縄県) |             |              |             |

## ◎学校歯科医 (36名)

|              |             |             |              |
|--------------|-------------|-------------|--------------|
| 東 敏郎 (北海道)   | 上條 敏夫 (青森県) | 伊保内政一 (岩手県) | 清水峻次郎 (宮城県)  |
| 石井謙二郎 (茨城県)  | 築瀬 滋男 (群馬県) | 蓮見 健樹 (埼玉県) | 佐藤 学而 (千葉県)  |
| 西連寺愛憲 (東京都)  | 柴田 嘉則 (東京都) | 丸山 正二 (東京都) | 渡邊 昭 (東京都)   |
| 太尾 政雄 (神奈川県) | 村田 久 (神奈川県) | 吉岡 秀雄 (新潟県) | 天井 久治 (福井県)  |
| 荒木とく代 (山梨県)  | 加藤 清 (愛知県)  | 辻川 次郎 (愛知県) | 小林 恢 (滋賀県)   |
| 茂籠 憲郎 (京都府)  | 覚道 要藏 (大阪府) | 岡 勝 (大阪府)   | 北川 重信 (兵庫県)  |
| 木村 雅行 (奈良県)  | 明楽 浩 (和歌山県) | 八百谷一洋 (鳥取県) | 石田秋二郎 (島根県)  |
| 宮原 保 (広島県)   | 久本 精一 (香川県) | 清水 義夫 (高知県) | 辛嶋 清澄 (福岡県)  |
| 山田 謙三 (長崎県)  | 江藤 賢明 (大分県) | 白尾 国興 (宮崎県) | 佐藤 正弘 (鹿児島県) |

## ◎学校薬剤師 (17名)

|              |             |             |             |
|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 雫田 幸男 (北海道)  | 加藤 惇夫 (秋田県) | 神林 昌良 (山形県) | 堀内 慶治 (埼玉県) |
| 山村 一雄 (東京都)  | 高橋 節夫 (岐阜県) | 白木彌一郎 (大阪府) | 泉原 伸治 (大阪府) |
| 白井 功 (大阪府)   | 脇本 佳信 (奈良県) | 加藤 榮藏 (鳥取県) | 川崎 弘之 (岡山県) |
| 河村 芳男 (山口県)  | 稲垣 進 (高知県)  | 脇園 茂 (福岡県)  | 久保 正吾 (佐賀県) |
| 立石 武男 (鹿児島県) |             |             |             |

## ◎校 長 (5名)

|             |             |              |             |
|-------------|-------------|--------------|-------------|
| 渡辺 義雄 (茨城県) | 徳田 有基 (栃木県) | 阿部 正昭 (神奈川県) | 外ノ池 一 (新潟県) |
| 溝上 岩巳 (佐賀県) |             |              |             |

## ◎養護教諭 (8名)

|             |             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 石山 恵子 (山形県) | 上技 治代 (福島県) | 花嶋あさ子 (千葉県) | 大村 芳子 (滋賀県) |
| 泉谷壽美子 (大阪府) | 曾田 早苗 (島根県) | 筑紫 咲子 (福岡県) | 野口 翠 (熊本県)  |

## ◎学 校 (13校)

|                 |              |               |
|-----------------|--------------|---------------|
| 青森県木造町立向陽小学校    | 秋田県能代市立第四小学校 | 長野県茅野市立湖東小学校  |
| 長野県栄村立東部小学校     | 静岡県裾野市立須山小学校 | 三重県南勢町立穂原小学校  |
| 岡山県瀬崎町立瀬崎小学校    | 広島県沖美町立沖中学校  | 愛媛県松前町立北伊予中学校 |
| 愛媛県玉川町立九和小学校    | 高知県立高知小津高等学校 | 佐賀県神埼町立仁比山小学校 |
| 鹿児島県東市来町立上市来中学校 |              |               |

## ◎団 体 (2団体)

|            |                |
|------------|----------------|
| 東京都豊島区学校医会 | 京都府福知山市学校保健委員会 |
|------------|----------------|

## ◎団体役員 (1名)

|            |
|------------|
| 足立 九 (福岡県) |
|------------|

## ◎学校安全

## ◎学 校 (19校)

|                      |               |                |
|----------------------|---------------|----------------|
| 山形県上市市立中川小学校         | 福島県塙町立塙小学校    | 群馬県嬭恋村立田代小学校   |
| 千葉県佐倉市立印南小学校         | 新潟県新潟市立西幼稚園   | 富山県滑川市立寺家小学校   |
| 長野県飯田市立丸山小学校         | 静岡県浜松市立庄内中学校  | 愛知県名古屋市立大高中学校  |
| 三重県上野市・阿山町学校組合立丸柱小学校 |               | 滋賀県志賀町立和邇小学校   |
| 奈良県東吉野村立四郷小学校        | 島根県川本町立三原小学校  | 山口県阿知須町立阿知須小学校 |
| 徳島県立板野高等学校           | 香川県綾上町立羽床上小学校 | 愛媛県川之江市立南小学校   |
| 福岡県広川町立上広川小学校        | 熊本県八代市立第六中学校  |                |

## ◎個 人 (1名)

|             |
|-------------|
| 片山 博美 (岡山県) |
|-------------|

## 第37回学校保健研究大会

## 特別講演「現代人とこころの健康」

名古屋大学教授 笠 原 嘉

教師というのは「人間教」と思います。人間に影響を与える仕事だからです。子ども達に影響を与える仕事ですから、まずは私共自身が心の健康を保持する必要があります。人のためにつくそうとするにはエネルギー（健康）がいります。

現代人の意識の特徴として3つあげられます。現代人の特徴の一つとして「せっかち」になったということです。新幹線で東京から大阪まであっという間につきます。ありがたいが考えてみますと精神的なテンポも新幹線に引きずられるようにせっかちになりました。新幹線が5～10分遅れても、たいしたことはないのですが遅れるとイライラします。一般の人達に比べて、吾々教師はゆっくりしなくてはいけないのですが…。

二つめの特徴としまして「病気と健康の境がはっきりしない」ということです。

体もそうだが心は特に。例えば、自殺を図る方ですが前の日迄ちゃんとしていた人が突然に自殺をします。普通にみられる人が問題になるということです。

三つめの特徴としまして「一病息災」つまり病気をもちながら現実社会で働くということです。例えばガンをもっている、なおかつ、息災な生活を一方でしている、それが不思議でない時代なんです。以上三つが現代の特徴だと思います。

疲れて憂鬱になる病理現象が文明国に広くみられますが、年代としては中年から初老の人に多い。遺伝よりも性格が関係しています。

割合きっちり型で人の和を重んじるタイプに多いようです。教師によくあるタイプで、まじめ→きっちり→うまくやることにウエイトを置くような人が憂鬱症になりやすい。

世の中というものに過剰に適応しようとする人はストレスに弱い、きっちり型でない人や、唯我独尊の人達はストレスに強いのです。

**ストレス病・第1モデル「憂鬱症」**

憂鬱症の目じるしとして、いつも朝おきて新聞を丹念に読んでいた人が読む意識をなくしたり、女性でしたら身だしなみが乱れるなどです。精神バロメータの一つとして「朝の新聞、よく読めますか」「女性の方、お化粧がおっくうですか」ということです。二つめのバロメータとして「ねむれない」があげられます。よく眠れないと朝の活力がありません。眠る事は精神的健康のベースです。

**ストレス病・第2モデル「心身症」**

ストレスが体に出ることで、例えば有能な社長が心筋硬塞症で倒れる。心筋硬塞症で倒れる人の共通点は「憂鬱症」になる人より頑張り屋さん（頑張る力がある）で疲れが分らない。疲れを知らぬある種のタイプの人です。

気持ちの上で減入らないが、体に出る可能性があります。

**ストレス病・第3モデル「食行動の異常」**

ストレスを行動によってはけ口を求めるタイプです。男は「衝動飲み」女は「衝動ぐい」もう一つ「衝動買い」があります。

現代のストレスに弱い人は「まじめな人」。また、能力の高い人であるにもかかわらず、ストレスに弱い新型が出てきました。中・高校で輝かしい記録のある人が学校生活より退却していく。また、立派な成績の社員が突然無断欠勤したり、2～3日失踪したりします。これを「退却具現症」と言っています。

先生方は「人間教」という仕事ですから子どもに影響します。心と体の健康には気をつけていただきたいと思います。

**「子どものストレス」について**

「学校嫌い」は、両親がかかわり家族療法が大切です。家族が柔軟度を豊かにもち、特に母親が敏感に反応してくれまると、治療がしやすくなります。子どもの学校ぎらいやノイローゼはきっちり型が多い。キッチリズムの働きと融和するようなものがが必要です。

学校は統制的になり易いが、保健室は中和剤の役割があります。疲れると救いの場所として保健室という港へ逃げる子がいます。

工業社会できっちりした効率社会が厳としてありますが、効率重視の世界の次にくるポストモラリズムの世界（人間重視の世界で曖昧なものも取り入れる世界）がみられます。私達が健康を保つために、ゆっくり歩く練習みたいなものがいいのでしょうか。

子どもが自分の悩みをもってくるのは、中学の後半でない無理かも知れません。

体の病気を訴える裏に心の悩みがあります。心身症として十二指腸潰瘍がありますが、その背景にストレスがあります。ストレスの表現として次の2つがあげられます。

①胃潰瘍などの病気（病気の裏に悩み）

②行動の異常（盗みや性的行動などであるが、平素の行動からは考えられないような者が、ストレスを行動で発散する）

登校拒否の場合は、教師が時間をゆっくりとって母親の話聞き、吸収してあげると母親の心は開きます。注意としては第三者の情報をうのみにしないことです。先入観が意外と措置を誤ることがありますので注意がいります。

日本は短かい期間に発展し、テンポの早い社会になりました。21世紀に向けて心の健康を保つことがとくに大切だと思います。（文責 福原保子）



# 学校保健協議大会の将来へ

(財)日本学校保健会 常務理事 下田 巧

先般の全国学校保健協議会においても、見直しのための委員会の設置が報告されており、ここ数年、協議会に参加される方々も、運営その他について、何とかならないかと思われる人が少なかったように思う。

そこで、私は全国学校保健研究大会37回のうち、7回頃から参加している関係で、比較的経過を知っている者の一人として、考えを述べる次第で、これは全く私一人の見解である。

まず、過去への感謝についてである。学校給食法、学校保健法、学校安全会法など児童生徒の学校教育における健康三法とも言うべき法規の成立には、過去の学校保健協議会の重要議題となり、各方面への要望が大きな力となった事を忘れる事はできない。私どもは、過去の方々に深く感謝すべきものと考えている。また、年々の健康診断に要する費用の増額、養護教諭の増加、環境保健の充実等も協議会における要望事項として、各方面に要望した功績を見逃すことはできない。

その連続として現在に及んでいる学校保健協議会の現況はどうであろうか。

毎年同じ議題でも重ねて要望する事によって、より重要であるという意志表示が必要であるという立場や議題に掲げないと予算が減少するのではないかという不安防止のための議題もあるように思われる。

私は、学校給食、学校安全、学校保健にかかわる法律を学校健康三法と述べたが、それは戦前から小学校の教員をした私にとっては、切実な要望であった。この三法合わせて、学校保健の骨子と思っているわけで、現在は役所の所管によって、別々のもののように考えられていることは残念である。

さて、現在行われている協議大会の反省であるが、第1は、日程の取り方であろう。

学校保健大会が、保健研究大会となり、その主催が日本学校保健会の外に文部省、関係教育委員会が主催者となった現在の運営では、学校保健会単独主催の学校保健協議会を学校保健研究大会の日程の中で、十分な日程をとることが困難なことは言うまでもないことであろう。では、いかなる日程がよいであろうかという事も今後の研究課題の一つとなろう。

第2は、議題のまとめ方である。それは各ブロック提出となっている現在では、各ブロックが日本学

校保健会への提出期限内にブロック保健大会の終了していない所、各ブロック内保健会が、このための会合を持つことが時間的に困難なこと等の事情から、前年度ブロックで問題となった事項より仕方ないというように、ブロックでまとめることの困難さがある。

第3は、議題の内容についてである。先に述べたように、学校安全、学校給食の所管が別になった事によって、学校保健とは別の如く考えて、それらを包括した健康管理指導上の重要な課題が提出されていない事も反省されよう。

これらについて私見を述べると、

## 1. 三法反省の時ではないか

学校安全会法(現日本学校保健会法)、学校給食法及び学校保健法が制定されてから30余年が過ぎているが、30年前法制定当時の児童生徒の健康状態(身体的、精神的)及び社会環境、生活条件が現在と比較して大へん違っている。児童生徒の不健康な状態は、単一の原因によるものよりも、友だち、家庭、日常生活、社会環境等、多くの原因の組み合わせによって起きる者も少ない。

現在の児童生徒を取りまく環境の中に立って、健康問題を考えた時、学校保健の立場から食事指導、生活安全、レクリエーション等健康教育の実現のための大きな課題が取り残されているように思われる。管理と教育が一体となった運営のための新しい分野の開拓が望まれる。

## 2. 健康教育、健康強調の世論を起こすことの必要

学校教育に関係する人達は声を大にして、健康教育の重要性を強調すべきと考えているが、そのような世論を起こすことが最も重要と思われる。そのために、学校保健関係者は、児童生徒の心身の健康についての世論喚起の運動を起さなければならない。

## 3. 学校教育の中で全教職員の共感共働する課題の提出を

私は、学校長が中心に協議大会に出席できるような土壌を作ることを提案したい。それは、議題が学校教員全員に影響することで、児童生徒の健康管理、指導上の問題である。従来の学校保健の担当者間の議題では、学校経営の流れに乗りにくい。性教育にしても健康観察、健康相談にしても、全教職員が不安に思いながらも毎日過ごしている問題は少なくないからである。

# 昭和62年度 全国学校保健協議大会の概況

- 1. 日時・場所等は次のように開催された。
  - 日時 昭和62年11月13日(金) 16:30~18:00
  - 場所 なにわ会館(大阪市)
- 2. 運営は次の通りに実施された。

① 開会のことば 16:30  
 (財)日本学校保健会副会長 加藤 増夫

② あいさつ 16:35  
 (財)日本学校保健会会長代行 村瀬 敏郎  
 文部省体育局学校保健課課長 込山 進

③ 議長団選出 16:40  
 (財)日本学校保健会常務理事 榊田 桂  
 栃木県連合学校保健会会長 梅園 昌男  
 大阪府学校保健会会長 尾花 茂  
 長野県学校保健会会長 伊藤 喜明

④ 報告 16:45  
 昭和61年度の協議事項の処理に関して  
 栃木県連合学校保健会会長 梅園 昌男

⑤ 協議 16:50  
 ア. 協議題

- ㊦「各ブロック提出の協議題について」  
 (各ブロック別に提案趣旨の説明・質疑)
- ㊧「既要望事項の処理経過について」  
 (本会より説明・質疑)
- ㊨「全国学校保健協議大会の今後の在り方について」(意見交換)

イ. その他

⑥ 次期開催県のあいさつ  
 長野県学校保健会会長 伊藤 喜明

⑦ 閉会のことば  
 (財)日本学校保健会副会長 松尾 学

3. 議題  
 本年は北海道、東北、関東甲信越静、北陸、東海近畿、中国、九州及び十一大都市の十ブロックから延39議題が提出された。(これらの中には重なっているものもある)

これらの議題を一応、分類をしてみると、次の通りであった。

- ◎要望課題からの再提出議題
- 1. 児童・生徒の健康診断の充実と強化。
  - (1) 心臓検診制度の充実と強化。(東北・関東甲信越静・近畿・中国・九州)
  - (2) 小児糖尿病の早期発見。(関東甲信越静・中国)
  - (3) 川崎病既往症歴のある児童・生徒に対する検査の充実。(中国・十一大都市)
  - (4) 健康診断項目の検討。(中国)
  - (5) 健康診断票の作成。(中国・十一大都市)
- 2. 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の待遇改善。(北海道・九州)
- 3. 児童・生徒の心の健康に関する対応の充実。(北海道・北陸・近畿)
- 4. 教職員の学校保健に関する資質の充実と強化。
  - (2) 校長・保健主事に対する研修の充実。(十一大

- 都市)
- (3) 養護教諭の実技講習の充実。(十一大都市)
- (4) 養護教諭養成制度の充実。(十一大都市)
- (8) 小学校・中学校の保健指導書の整備。(北陸九州)
- 5. 教職員の健康管理の強化。(近畿)
- 6. 学校保健活動の充実と強化。
  - (1) 学校保健委員会の充実と強化。(北陸・近畿・四国)
  - (2) 養護教諭の全校配置及び大規模校への複数配置。(東北・関東甲信越静・東海・近畿・中国・九州・十一大都市)
  - (10) 保健主事の機能の発揮。(四国)
- 8. 学校環境衛生の充実。(近畿)
- ◎既研究課題からの再提案。

- 1. 児童・生徒の健康診断の充実と強化。
  - (1) 児童・生徒の結核検診の再検討等。(関東甲信越静・九州)
  - (15) B型肝炎の現状と予防対策。(関東甲信越静)
- 4. 教職員の健康診断の考察について。
  - (3) 特殊教育諸学校における教職員の健康管理の充実。(近畿)
- 6. 学校保健の充実と強化。
  - (1) 肥満傾向のみられる児童・生徒の指導について。(北陸・近畿)

これらの議題は、過去何回か提出されているもので、説明は簡略にしたが、何回も提出せざるを得ない状況を推察してほしい旨の要望があった。

本年に新たな議題としては、次のようなものが提出された。

- 1. 大規模校の内科校医の増員について。(東北)
- 2. 労働安全衛生法による産業医の配置について。(関東甲信越静)
- 3. 貧血、血液比重の検査について。(関東甲信越静)
- 4. 学校歯科検診における滅菌消毒器等の整備について。(近畿)
- 5. 口腔疾患の対応について。(近畿)
- 6. 保健教室の設置について。(近畿)
- 7. 腎疾患児の管理について。(近畿)
- 8. 眼科医、耳鼻科医による検診の充実。(近畿)

4. 協議の経過と処理  
 各ブロック代表の説明に対し、それぞれ質問、応答が続けられ、熱心に討議が進められた。

ただ提案者の多くは、新規というよりも、より充実という立場の者が多く、従って、質疑も賛成多数という議題が多く、今後の学校保健の動向に新発想を与えようとするものが少なかった。

整理については、議長団に一任され、これを当局への要望事項と各保健会における研究事項に分類した。要望事項については可及的速かに当局に要望する事を約して終了した。

(常務理事 下田 巧)

# 第37回 全国学校薬剤師大会

第37回全国学校薬剤師大会は11月11日、大阪市内にて全国より多数の学校薬剤師の参加のもと「21世紀を担う健康な子供の育成を目指して」をメインテーマに盛大に開催された。

永年にわたり、学校保健活動に貢献された先生方、(文部大臣表彰受賞者17名、日本学校薬剤師会賞受賞者10名、日本学校薬剤師会感謝状贈呈者21名)に記念品の授与が行われた。

次いで、高塚泰次郎大阪体育大学教授の特別講演

「マラソンランナーに学ぶ」が行われた。先生は数多くのオリンピック選手を育て世に送り出し、又、以前に体育課指導主事、高校長も務められ学校保健の造詣も深い。マラソンランナーが、自己の限界に挑戦し、孤独と困苦に闘い、マラソンに生き、この道にすべての情熱をかけて来た「人生哲学」を切々と話され、参加された方々の胸を打った。

第38回は長野市で開催されることになった。

(杉下順一郎記)

## 日本学校保健会だより

### 昭和62年度 全国学校保健研究大会・地域ブロック学校保健大会

| 大会名(期日)                               | 場所   | 主 題                                                                                    | 代表出席者・講師        |
|---------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 第37回全国学校保健研究大会<br>11月12日(木)~13日(金)    | 大阪府  | 21世紀を担う健康な子供の育成を目指して                                                                   | 村瀬会長代行ほか        |
| 第38回十一大都市学校保健協議会<br>5月31日(日)・6月1日(月)  | 神戸市  | 健康な心と体で生涯をたくましく生きる子どもの育成                                                               | 尾花副会長           |
| 第22回東北学校保健大会<br>8月10日(月)・11日(火)       | 秋田県  | すすんで健康づくりに取り組み、活力ある生活のできる児童生徒の育成                                                       | 和久井専務理事         |
| 第9回近畿学校保健連絡協議会<br>8月20日(木)            | 奈良県  | 近畿の学校保健会関係者が一堂に会し、当面する諸問題について連絡調整と研究協議を行い、学校保健の推進を図るとともに、近畿学校保健連絡協議会及び日本学校保健会の発展に寄与する。 | 尾花副会長           |
| 第37回九州地区学校保健研究協議大会<br>8月23日(日)~25日(火) | 大分県  | 自らの力で判断・決定し、健康で安全な生活を実践していくことのできる児童生徒の育成                                               | 和久井専務理事         |
| 第33回中国地区学校保健研究協議大会<br>8月24日(月)~26日(水) | 岡山県  | 自ら進んで健康づくりを実践する子供の育成                                                                   | 松尾副会長<br>長畑正道   |
| 第7回四国学校保健研究大会<br>8月27日(木)・28日(金)      | 香川県  | 心豊かで健康な児童生徒の育成をめざして                                                                    |                 |
| 第38回関東甲信越静岡学校保健大会<br>8月28日(金)・29日(土)  | 長野県  | 心豊かでたくましい児童・生徒の育成を目指して                                                                 | 和久井専務理事         |
| 第36回北海道学校保健研究大会<br>9月12日(土)・13日(日)    | 苫小牧市 | 北国の風土に根ざし、生命を尊び自らをきたえ心身ともに健康で安全な生活を営む子どもの育成をめざして                                       |                 |
| 第35回北陸三県学校保健研究協議会<br>10月16日(金)・17日(土) | 富山県  | 風雪に耐えて生きぬくたくましい体                                                                       | 和久井専務理事<br>小野三嗣 |
| 第8回東海ブロック学校保健会連絡協議会研究大会<br>11月19日(木)  | 三重県  | 健康に生きぬく児童生徒の育成                                                                         | 藤井真美            |

第34回全国学校薬剤師講習会

6月11日(木)・12日(金) 山梨県

〔その他の会〕

昭和62年度学校保健講習会

9月18日(金)・19日(土) 東京都

全国養護教諭研究大会 8月5日(木)・6日(金) 福島県

第51回全国学校歯科保健研究大会

10月23日(金)・24日(土) 岐阜県

養護教諭実技講習会 7月~8月

第30回全国学校保健主事研修会

8月18日(火)・19日(水) 滋賀県

岩手県、神奈川県、静岡県、京都府、山口県、福岡県  
ヘルスカウンセリング指導者養成講座 8月、11月、12月  
千葉県、愛知県、広島県

# 育ちざかりのひと粒!

体力をつけ健康を保つ

## カワイ肝油ドロップ



製造発売元 **河合製薬株式会社** 東京都中野区新井2-51-8



どちらかひとつをお選びください。

エームスの尿潜血・蛋白質同時検査試験紙。



尿中潜血・蛋白質・pH同時検査用試験紙

**キッドステックスⅢ**

尿中潜血・蛋白質・ブドウ糖・pH同時検査用試験紙

**マコンビステックスⅢ**

**マイルス・三共株式会社**

東京都中央区銀座1丁目9番7号 〒104 ☎(03)567-5511

販売元:

**三共株式会社**

東京都中央区銀座2丁目7番12号 〒104 ☎(03)562-0411

●学校保健の総合月刊誌

## 健康教室

いつもフレッシュな現場のための専門誌  
例月号定価 600円  
特集増刊号(年3回) 各650円  
臨時増刊号(年1回) 800円

●一般向け資料集・指導書(日本学校保健会編)

62年度版学校保健の動向 B5判 340頁 2,400円

保健指導に必要な知識100題

A5判 210頁 1,100円

(小学校)学級担任のための歯の保健指導

B5判 174頁 1,580円

高等学校保健の手引き A5版 280頁 1,800円

学校保健専門出版 **東山書房** 京都(075)841-9278 東京(03)553-8358

子供の歯を考えた

**ライオンの2段植毛ハブラシ**

●低学年用 ●高学年用

**ライオンこどもハブラシ**

●推薦 日本学校保健会

ライオンのハブラシ製品  
ライオン株式会社

## “ふだんの予防で、元気な毎日”まず手洗い!!

### 殺菌消毒用 **シャボネット石鹼液2.0L**

日本学校保健会推せん

精製ヤシ油を原料にした殺菌、消毒用石鹼液で、手洗いのあといや～な臭い  
が残りませんので喜んでお使いいただけます。シャボネット容器に入れ、水で  
7～10倍にうすめてお使いください。

サラヤ株式会社 TEL(06)797-2525 東京サラヤ株式会社 TEL(03)458-1515

へ本会報は、拠出金と、本会への船舶振興会助成金により作成しました。